

100人で遠山川を美化

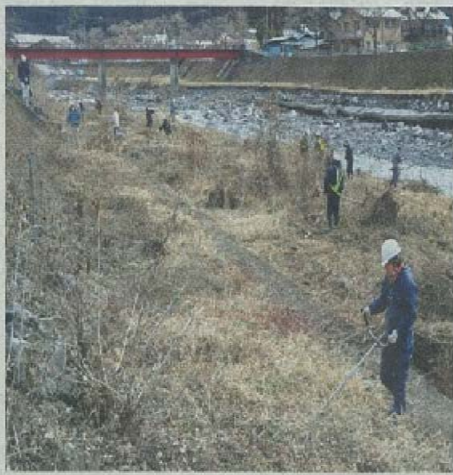
遠山川づくり会議

県の愛護活動団体に登録し

飯田市南信濃地区を流れる遠山川の整備をめぐり、県下伊那南部建設事務所と住民が協働で昨年発足した「遠山川づくり推進協議会」(会長「玉置洋一」南信濃まちづくり委員会会長)は10日、同河川で美化活動を行った。県の河川愛護活動支援事業活動団体に登録して初開催。住民ら約100人が参加し、水際広場の設置が計画されている和田のかくらの湯付近の土手で草刈りを行った。

協議会は、河川整備について考えた前身組織に教育関係者を加えて営繕化し、昨年10月に発足した。「人・自然・文化のハーモニー」をテーマとする遠山川の推進を目的に、河床回復や水際広場の設置を計画する県の「信州のいい川づくりモデル事業」を協同で展開するほか、長瀬の維持や管理、モニタリング、施設の点検、修繕などの活動を展開する。

初開催となった美化活動には協議会のメンバー



遠山川両岸で河川清掃をする参加者たち

部が本来有する景観・自然環境を發揮することを目指す。

高森町山吹

6月の乱舞楽しみに

天伯峡でホタル幼虫を放流

高森町の高森北小学校4年生24人が11日、学校で育てたゲンジボタルの幼虫を同町山吹にあるホタルの名所「天伯峡」に放流した。例年だと6月上旬にホタルの舞つ姿が見

られ、児童たちは「きれいに飛んでほしい」と期待を込めた。天伯峡を流れる吉沢川一帯は、古くからゲンジボタルの生息地として知られる。山吹の住民有志でつくる天伯峡はたな管理委員会が専用水路を設けるなど生息環境を維持、管理。10年ほど前から北小の協力で幼虫を放流している。同管理委員会は昨年、6月下旬に母ホタルを採取し交配、産卵の後、10月25日に5匹から1匹ほどの幼虫約800匹を北小に届けた。同校では例年通り、4年生が飼育を担当。当番制で幼虫が入った容器の水を入れ替えたり、成長の記録もした。約5カ月間をわたって大事に育て、幼虫は大きいもので3〜4センチ

を目標として、県が実施する。玉置会長は「地域を巻き込んだ川づくりの展開に感謝したい。遠山川は財産。二重南信自動車道の開通を見据え、着実に活動をしていきたい」と話していた。

シンダ

4月 年

飯田市追手町の市美術博物館は4月から、同館の展示やフランクタリウムなどを年間通して利用できる「びはく